

県 広 報

# とやま

TOYAMA PREFECTURAL REPORT

特集/世界を舞台に地域の協力

～富山県国際協カプラン～



 富山県

10

1994 No.309





## 夢に向かって直進!

高校総体女子バドミントン競技シングルス優勝  
山田潤子さん (高岡女子高校)

「試合に勝った瞬間は、正直言ってホッとしました。」この夏開催された富山インターハイのバドミントン競技シングルスで見事優勝した高岡女子高校の山田潤子さん。当初から本命視されていただけに、相当なプレッシャーがあったようです。

決勝戦の第一セット、山田さんはわずか二点しか取れずに失ってしまいました。「ダブルスで長時間戦った直後だったこともあって、精神的にも体力的にも限界だと思えました。でも先生の「あと一時間戦える体力はある」という言葉を信じて、もう少し頑張ろうと自分に言い聞かせ、接戦をものにできたんです。」

山田さんがバドミントンを始めたのは小学校四年生のとき。富山市のジュニア・クラブに入ってめきめき頭角をあらわしました。「全国を意識したのは中学二年のときで

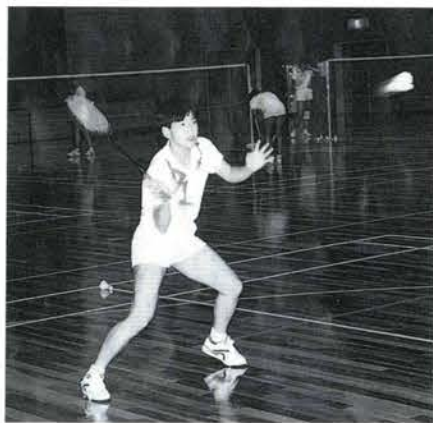
す。全日本ジュニアの大会で米倉さん(現在常総学院)に負け、悔しい思いをして、今度対戦したときはぜひ勝ちたいと思って練習するようになりました。」

一流になるには技術面だけでなく精神面の強さも要求されます。「メンタル・トレーニングは特にやっています。ただ、気を抜いた日常生活を送らないようにすることや、自分以外の人に対して気配りをするなどが、いざというときの精神的な強さにつながると思っています。」

練習に追われる毎日ですが、帰宅してからは好きな音楽を聴いたり、合宿などで知りあった全国の多くのバドミントン仲間と文通したりしているという山田さん。「今は高校生の日本一。今度は全日本のチャンピオンになって、できればオリンピックに出たいですね。そして将来は、ジュニア・クラブをつくってバドミントンを教えるのが夢なんです。」

「思い込んだらそれに向かって直進するタイプ」というのが山田さんの自己分析。「そんな性格がいい方なので、今回の優勝につながったんでしょう。でも、いつもいい方にとどまるとは限らないですよ。」とあどけなく微笑む山田さんの笑顔は、コート内での緊迫感溢れる表情とは別人のよう。

これからも夢に向かってまっしぐらに進んでいくでしょう。



### 10 CONTENTS

10月号もくじ

撮影/赤羽仁諭(富山県写真家協会会員)	表紙
とやま遊学感/有峰ふるさと自然公園	表2
ひとアズとやま/山田潤子さん(高校総体女子バドミントンシングルス優勝)	1
クローズアップ・県政の動き	2
①世界リゾート博「富山の目」(和歌山)	
②ワールドパートナーシップ・フォーラム	
③遠望者友好代表団来県	
特集/世界を舞台に地域の協力(富山県国際協力プラン)	4
PINUPPTOYAMA	8
写真/滝川邦彦(日本写真家協会会員)	
詩/山本哲也(富山現代詩人会会員)	
ふるさとみてる記(大門町)	10
①ふるさとの味作りを实践	
②心を和ませる町のマジシャン	
③トンボで結ばれた親子の絆	
エッセイ/倉谷 寛(富山市科学文化センター館長)	12
富山県における主要プロジェクト	13
とやま健康村整備事業	14
県からのお知らせ	16
暮らしのアドバイス	表3
とやまの祭り記/たいまつ祭り(黒部市生地)	表3



## 美しい森と湖の野外レクリエーションパーク 有峰ふるさと自然公園

レポーター: 県立総合衛生学院 岡本千春さん

有峰ビジターセンター内



バーベキューも楽しめます



11のアドベンチャー・コースがあります



湖を一望できる展望台



キャンプ場付近の白樺林を散策

有峰湖は、常願寺川の支流である和田川をせき止めた人造湖。高さ百四十メートル、長さ五百メートルの有峰ダムは、電源王国富山のシンボルといえるでしょう。今回私が訪れたのは、この有峰湖を擁する自然が美しい有峰ふるさと自然公園です。

かつて平家落人伝説の秘境の地であった、ここ有峰地区も、現在では有峰湖を中心に山と湖の県立自然公園に指定され、格好のレクリエーション地区に様変わりしています。

ここでは、テニスやフィールドアスレチックが楽しめるほか、バーベキュー広場もあり、家族連れには絶好のプレイランドになっています。また、白樺林のなかにはキャンプ場もあって、夏場は多くの人々で賑わうそうです。さらに、付近の原生林を活かした探勝路も整って、植物や野鳥の観察にはうってつけです。

この他、有峰の素晴らしい自然や歴史をビデオ映画、模型、パネル等で紹介する有峰ビジターセンター、屋上展望台から有峰湖を一望できる有峰記念館などの施設も充実。

しかし、何といても四季折々でその装いを変える自然景観に勝るものはありません。さわやかな新緑の春、緑濃い夏、そしてこの広報紙が発行される秋には、湖に映える木々の紅葉を満喫できることでしょう。また、晴れた日には北アルプス随一の美しさを誇る粟師岳の雄姿が楽しめます。

今年、従来の林道有峰線のほかに小口川線が開通したことで、新たな周遊ルートが生まれ、楽しみも倍増。みなさんぜひ一度訪れてみてください。



# 郷土芸能

8/23

## 郷土芸能で富山をアピール

世界リゾート博「富山の日」

七月十六日から九月二十五日まで和歌山県で開催された「世界リゾート博」。全国規模のイベントを通して、富山の魅力を積極的にアピールし、イメージアップを図るため、八月二十三日を「富山の日」と銘打ち、富山の観光キャンペーンが盛大に繰り広げられました。

「祭り三昧! いきいき富山」をテーマに、まず、オープニングではアストロビジョンの映像で立山、黒部峡谷、日本海などの富山のイメージ映像を紹介。続いて、両県代表による記念品

交換が行われた後、魚津市の「せり込み蝶六」、氷見市の「網起こし木遣り」、福光町の「もちつき太鼓」といった郷土芸能が次々に披露されました。

会場となったイベントホール「未来」は、満員になる盛況ぶり。特に、コシヒカリや海の幸セットなど特産品の当たるクイズ形式の抽選会では、観客の方々が積極的に参加するなど、会場は大変な盛り上がりを見せていました。



▲郷土芸能「もちつき太鼓」を披露



▲大盛況イベントホール「未来」

9/2

## 世界十四か国大使ら一堂に

ワールド・パートナーシップ・フォーラム  
富山セミナー開催

日本の外交について考える「ワールド・パートナーシップ・フォーラム (WPF) 富山セミナー」が九月二日、名鉄トヤマホテルで開催されました。

このフォーラムは、国際問題をテーマにした自由な議論を通して、日本の進路を探ろうとするもので、毎年、東京と地方で開かれています。今回は、アメリカ、



▲メイン講師の齊藤事務次官

▲ランチョン・スピーチで富山をPRする中沖知事

9/6 ~7

## 一層の友好交流を確認

中国遼寧省友好代表団来県

富山県と友好県省を締結している中国遼寧省から、顧金池・中国共産党遼寧省委員会書記を団長とする友好代表団・経済代表団が九月六日、来県し、県庁正面で小学生や県職員らの歓迎を受けました。

一行は七日、県立大学など県内施設を訪問。また八日には、県民会館で行われた児童書画展開幕式や友好十周年記念式典に出席しました。記念式典では、中沖知事が「有好の絆を太く、大きく、たくましくして子孫へ引き継ぎたい」とあいさつ。これを受け、顧書記は「友情が互いの省、県民の心に深く根を張るよう発展させたい」と述べました。その後、有好十周年記念品として、遼寧省から埋もれ木彫刻「八駿馬」が贈呈されました。この彫刻は、富山空港国際線ターミナルビルに永久



展示されます。また、県からは、遼寧省で日本語を学ぶ学生に対する友好記念奨学金が贈られました。

今後、両県省の友好交流が一層深まり、日中友好交流への大きな潮流になることが期待されます。



▶「八駿馬」の前で堅い握手

埋もれ木 遼寧省の特産品。四、五千万年前の木が変成したもの。石炭に比べ、強固でキメが細かく、光沢がある。

## 県政の動き

H6. 8月11日～9月10日

- 8月13日 第1回Uターンフェア・イン・とやま
- 8月15日 富山県戦没者追悼式
- 8月20日 遼寧省観光物産展 (～28日)
- 8月22日 中小企業融合化推進大会「融合とやまサミット」
- 8月23日 世界リゾート博・和歌山「富山の日」
- 8月27日 第12回北方領土返還要求富山県大会
- 8月29日 第16回「みんなですすめる交通安全」全国キャラバン隊富山県出発式
- 9月2日 ワールド・パートナーシップ・フォーラム富山セミナー開催
- 9月3日 国際家族年記念事業「おもちゃフォーラム in TOYAMA」(～10月2日)
- 9月6日 遼寧省友好代表団来県
- 9月9日 まつり博・三重「富山の日」



# 世界を舞台に地域の協力

## 富山県国際協力プラン

特集

我が国の国際貢献に対する期待がますます高まっています。今日、地方公共団体の国際化に対する施策も多様な展開をみせるようになりました。

『世界に開かれ貢献する富山県の創造』……。この目標を実現させるため、県では、諸外国との国際交流を幅広く展開するなかで、国際協力事業にも積極的に取り組んできました。

今後、県民参加のもと国際協力事業をさらに進めていくためには、中長期的な指針を明らかにすることが必要です。このため県では、富山県における国際協力の総合的かつ体系的な計画として、「富山県国際協力プラン」を策定しました。ここでは、プランの内容を中心に、「国際協力」に焦点をあててみました。



### なぜ「地方発」の国際協力?

地域の国際化が進むなかで、県民一人ひとりが国際社会と密接な関係を持たざるを得なくなってきました。また、国際協力の分野においても、地方の持つノウハウこそが役立つ分野が増えてきています。

地方の行う国際協力は、国の外交政策とあいまって、日本と世界を結ぶ大きな架け橋となり、世界の安定・平和に貢献する一方、お互いの地域の発展や活性化にも大きく寄与するものと考えられます。

地方の行う国際協力には、次の三つの意義があります。

### 国際協力の意義

#### (1) 国際社会の平和と発展への貢献

県や市町村、さらには県民一人ひとりによる草の根レベルの協力は、国レベルの協力よりもきめ細かく、これを進めることで、国レベルの関係をより厚みのあるものとし、より強い絆をもって国際社会の平和と発

展につながります。

#### (2) グローバルに考え、ローカルに行動する人材の育成

地域において国際協力を行うことにより、県民のボランティア精神を養うとともに、地球的視野を持って地域で行動する人、地域を考えながら国際的に行動する人を育てることができます。また、相手地域にとっても富山県民との関係を大切にしなが、自らの地域の発展に貢献する人材を育てることもなります。

#### (3) 豊かな地域社会づくりによる地域の活性化

環日本海地域など関係の深い地域への協力や共同事業は、それらの地域の社会、経済の発展を促すばかりでなく、本県を含め環日本海地域全体の発展、活性化につながります。

### 富山県の国際協力の現状と課題

#### (1) 県内における人材育成

##### ● 技術研修員の受入れ

県では、国の補助を受けて実施している海外技術研修員受入事業、県単独で実施しているロシア沿海地方からの受入れ、さらに友好交流の一環としての中国遼寧省からの受入れなど、技術を習得しようとする青年たちを幅広い分野で受け入れています。国でも、補助事業による技術研修員の受入れ数拡大を目指していること、友好提携先からは受入拡大の希望が寄せられていることなどから、今後の受入れ枠の拡大が課題となっています。

##### ● 留学生の受入れ

富山県への留学生は、昭和六十三年の五十七人から平成五年には二百四十人と、五年間で約四倍に増加。このうち多くを占める私費留学生にとって生活費の逼迫や住環境の改善が問題になっていきます。県ではこれらの状況を踏まえ、大学、市町村、民間団体、企業などと協力して、留学生に対する支援策の拡充を検討していく必要があります。

##### ● 外国人研修生の受入れ

近年、商工会等による労働者の研修生の受入れが活発化しています。平成四年には富山県商工会連合会が、中国遼寧省から百人余りの研修生を受け入れました。県としては、これらの受入れに対し、入国管理制度上求められている適切な支援を行っていくとともに、(財)国際研修協力機構等との連携を強化する必要があります。

#### (2) 海外での国際協力

##### ● 専門家の派遣

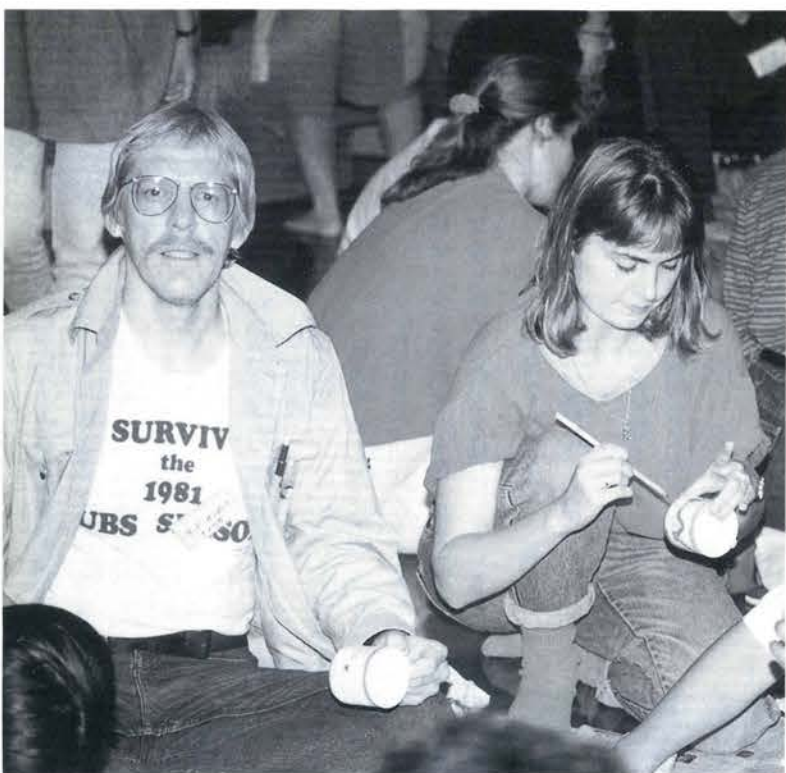
現在県では、中国遼寧省に農業関係等の研究者を派遣し、指導や共同研究を行っています。今後、他の友好提携先からの派遣要請が拡大することが予想されることから、これらに応えるため、人材の養成と確保を図ることが不可欠です。

##### ● 青年海外協力隊への派遣

国際協力事業団が行う青年海外協力隊事業には、今まで百二十人以上の県出身者が派遣されています。今後、開発途上国からの要請も高まると思われることから、県では県民にこの制度の普及を進めていくことが必要です。

#### (3) 県民が行う国際協力

現在、県内民間団体において、各種の人的な援助事業が行われてきています。地域レベルの国際交流は、県民一人ひとりが草の根レベルで推進していくことが重要です。そのためには、青少年に開発途上国への援助の大切さを認識させる教育を行ったり、民間国際交流団体によるイベントや市民講座などの開催を通じて、県民の国際協力への理解を深め、担い手づくりをしていくことが必要です。





## 国際協力の推進施策

国際協力プランでは、国際協力の具体的な施策をあげ、今後の推進施策のあり方を展望しています。その主なものは次の通りです。

### ★国際協力推進拠点の整備

県民と外国人が交流・交歓し、世界各国の国情などにも触れることができる拠点となる国際交流会館(仮称)の設置を、市町村や民間等との協力のもと検討してまいります。

### ★ホームビジット制度の導入

長期のホームステイや農業等を体験できる制度を導入し、研修員等が一般家庭と家族的な交流ができるようになります。

### ★帰国研修員への支援

研修員が帰国後、より高度な技術支援を必要とする場合、国の「再研修制度」を活用した受け入れを進めます。



### ★留学生に対する支援

大学、地方公共団体、民間団体、企業等が協力して留学生基金の創設などについて検討します。また、留学生宿舎の確保、留学生会館の設置等についての検討も必要です。



### ★日本語学習への支援

ブラジル・サンパウロ州ミランドポリス市への日本語教師の派遣を続けるほか、友好提携先の中国遼寧省やロシア沿海地方への日本語教師の派遣についても検討します。特に中国遼寧省等の友好提携先については、現地で日本語を学ぶ学生に対する奨学金制度を創設します。

### ★青少年への開発教育

若者の国際協力への意識を高める開発教育の充実を図るため、啓発活動を積極的に進めます。また、青年海外協力隊OBや留学生たちによる開発教育キャラバンの実施について検討を進めるほか、若者のボランティア活動の促進についても積極的に支援してまいります。



### ★伝統医薬に関する協力

「くすりの富山」としての三百年に及ぶ和漢薬の伝統を活かし、薬草をはじめとする伝統医薬に関する国際シンポジウム等を開催するなど、学術交流や共同研究を進め、地域づくりのパートナーとしての絆を強めます。

### ★(財)とやま国際センターの機能の強化

富山県における中核的な民間組織である(財)とやま国際センターの機能を充実させ、市町村、民間等の協力を得ながら、国際協力のための基金の創設など、運営基盤の強化を図ります。



## 国際協力の実現に向けて

国際協力プランに基づき国際協力を推進していくためには、県民の理解や協力、積極的な参加が極めて大切です。県民一人ひとりが国際協力の担い手となり、草の根の活動が広く展開されていくためには、国際協力というものを特別視せず、より身近なものとして捉えることが必要です。県では、県民が国際協力についての情報を的確に把握でき、参加しやすい環境づくりを今後も積極的に進めてまいります。

## ●ブラジルからの海外

### 技術研修員

マツイ・マルシアさん

(大沢野町の俣斎藤製作所に勤務)



六月に富山に来ました。ブラジルで大学を卒業したあと科学技師の資格をとったんですが、就職がありませんでした。ブラジルでは経験者でさえ仕事がなく見つからない状況。大学を卒業してもチャンスがないんですよ。ただ、プラスチック産業は盛んで仕事もたくさんあったので、その方面の勉強がしたいというのが海外技術研修員に応募したきっかけです。

今は、製品の品質管理の仕事をしていますが、研修期間中には製造工程などの仕事も勉強する予定です。苦勞することはないですね。仕事の書類やコンピュータなどの説明書を読むことが多いので、とても大変です。でも、周囲のみなさんが優しいので、とてもラッキーだと思います。そのせいか、まだホームシックにはなっておりません。

ここで学んだことをブラジルに帰ってから、ぜひ活かしたいです。そのためにも、もっといろいろな技術を学びたいです。研修は来年の三月までの十か月間ですが、欲を言えば最低二年ぐらい研修期間があればいいですね。そうすれば、もっと日本語もマスターできて、いろいろな技術を学ぶことができるからです。



## ●「愛のポシェットを送る運動」を行う富山大学付属中学校

生徒会総務委員長 古田 絢子さん



生徒会では、身近なアジアの子供たちに対し、自分たちで何かできないかを考えていたんですが、去年、父兄の方を通じ、文房具や生活用品をきんちゃく型ポシェットに詰めてカンボジアの子供たちに送る「愛のポシェットを送る運動」の存在を知りました。生徒のみんなに働きかけて身の回りでもまだ使用されていない物を集め、九十袋のポシェットを送りました。そして今年も、百三十袋あまりを送ったところです。

私たち中学生は、大きな協力にはできません。身の回りの物を送ることは大したことではないかもしれませんが、ボランティア団体経由でこちらに送られてくる子供たちの手紙を読むと、本当に喜んでくれていることが伝わってきます。このような運動を行うことが、単なる生活援助というだけではなく「相手を思いやる気持ち」につながれると思います。また、相手国についてもっと知りたいという気持ちになり、自分なりにその国について勉強するようになりました。

この運動をこれからも続けていって、もしできるものなら向こうの子供たちとの交流の場を持つことができれば嬉しいです。



黄金色に輝く  
地球を  
蚕食するなにものもない

闇をつくる魔神に  
たじろがぬものこそ  
この黄昏に  
黙して立つ

新しい朝<sup>あした</sup>を迎えるために





# 大門町

ふ・る・さ・と  
み・て・あ・る・記

## ふるさとの味作りを実践

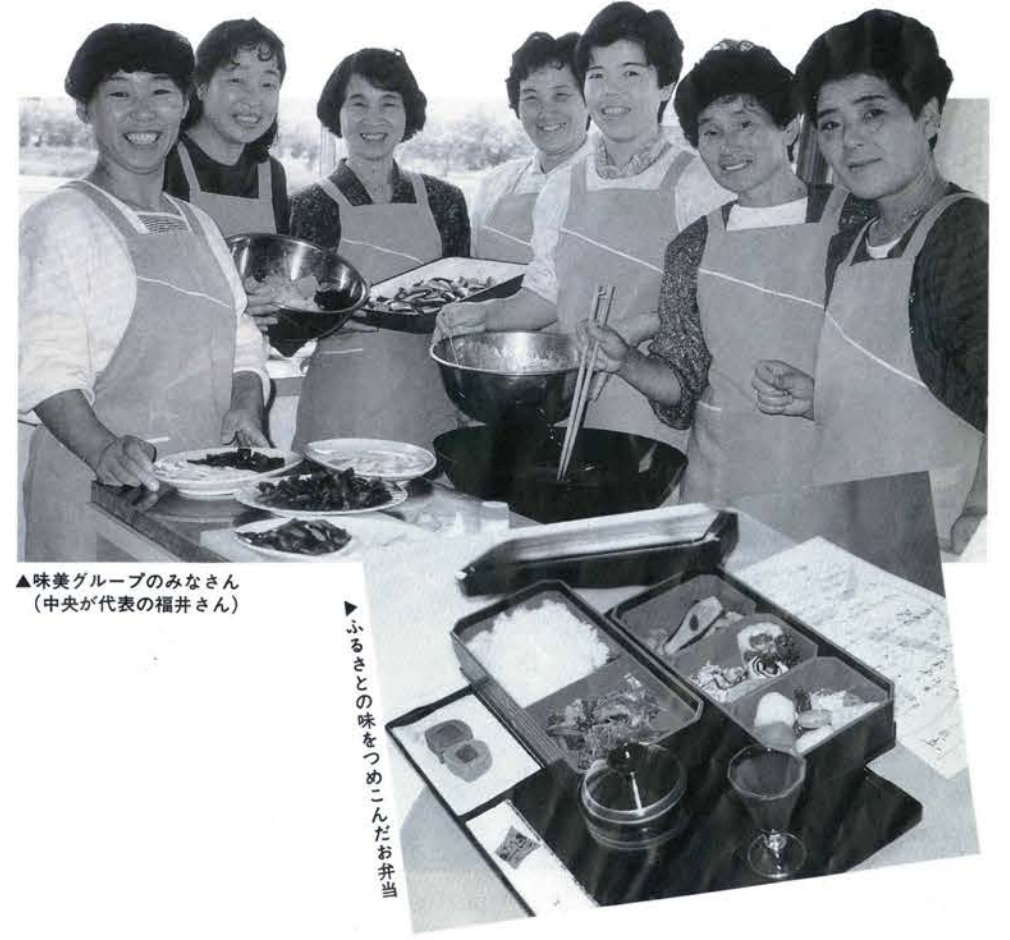
あじみ  
味実グループ

「農閑期のときにも、地区の活性化をはかろうということで、昨年の八月から本格的に弁当の予約販売を始めたい」と語るのは「味実グループ」の代表、福井信子さん。

このグループを構成するのは農家の主婦三十名。そのため、しろな・小松菜などの野菜や、なし・マスカットといった果実は、主に自分たちの家で収穫した農作物を弁当の材料として利用している。

お味の方はというと、それぞれが得意な分野を分担していることもあって、お客さんにはとても好評だそう。この夏開催された高校総体では、関係者の昼食のお弁当三百食を納入した。「そのとき、うちのを食べることができなくて、残念だったとの声があつて嬉しかったねえ」と副代表の池原さん。また、機会があればもう一度食べたいと言われることも多いという。

「弁当の注文が増えて、生産が追いつかないことがあるんです。もっと広い厨房が欲しいですね。」たがいま狭い厨房が悩みのタネ。ふるさとの味を追求するおふくろさんたちの奮闘はこれからも続く。



▲味実グループのみなさん  
(中央が代表の福井さん)

▲ふるさとの味をつめこんだお弁当

## 心とませる町のマジックマン

浅井淳一さん

「小学校の教師をしていたときに、学級の誕生会などの行事に何か生徒の喜ぶことをしてやりたいと思い、手品を習い始めたんです」と現在、県内外の老人ホームや福祉施設などをまわり、手品による慰問を行っている浅井淳一さん。

「習い始めのころは何度もやめようと思いましたが、でも、普段子供たちに『何事も努力せんといかんぞ』と言っていた手前、お手本を見せないとね」と浅井さんは笑う。二十五年間マジック教室に通い続け、現在では出し物の数も百二十、三十種類にのぼるといふ。

「体の不自由な方々に拍手してもらったときは、涙が出るほどうれしかったです」としみじみ語る浅井さんに、当初、手品を習うことにも反対していた奥さんも共感。いまでは、貴重なパートナーとして年間四十回ほどのステージを手伝っている。

「子供が小さかった頃、一緒にステージに上がったことがあるんですが、今度はずいぶん一緒にマジックを披露してみたいし、やっぱり元気である限りはボランティア活動も続けたいですね」町のマジシャンは更にテクニックに磨きをかけ、これからは多くの人々を楽しませてもらえることだろう。



▲部屋には、所せましと手品の小道具が……



▼浅井淳一さん

## トンボで結ばれた親子の絆

二橋弘之さん・亮さん親子



▲貴重な標本の数々を披露

「息子とトンボを探りにいくのが楽しくて」と語るのは、魚屋さんを営むかたわら八年ほど前から息子の亮さんとともにトンボを追いかけ続けているという、二橋弘之さん。



▲二橋さん親子

・人口 12,304人 ・面積 21,77km<sup>2</sup> (平成6年7月1日現在)

大門町は射水平野の南西部に位置する自然豊かな町である。最近では農業基盤の整備が進む一方、中小企業団地の造成など都市化が活発にすすんでいる。

また、五月の越中だいもん風まつりは、県内外から多くの観光客が訪れる町の一大イベントとなっている。

### 大門町の概要

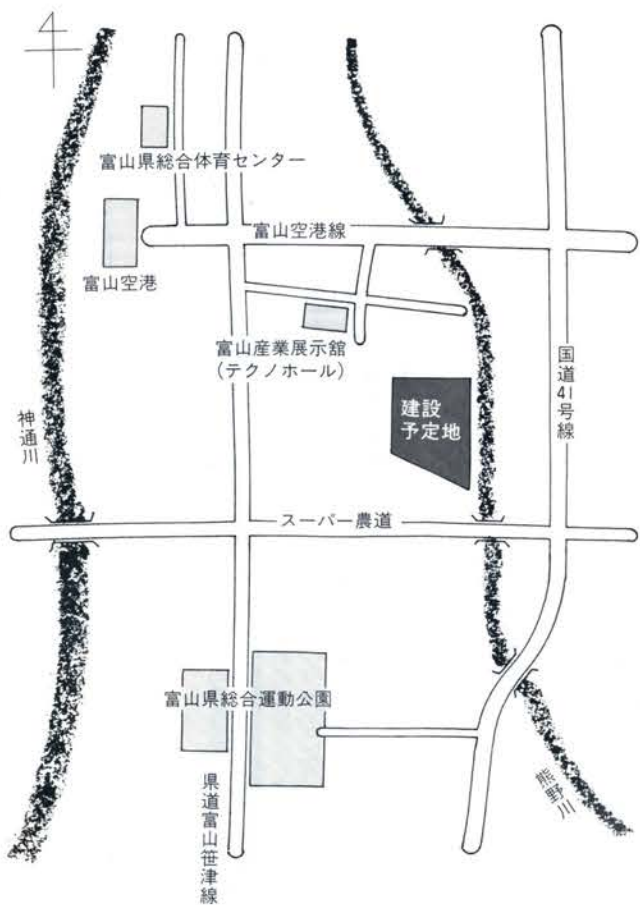


「自分が子供の頃には当たり前のように見ることのできたトンボが、ある本では絶滅あるいは県内で長らく確認されていないと書いてあったんですよ」そんな記述にショックを受けたのが、トンボの生態に興味を持つようになったきっかけだ。その頃は小学校三年生だった息子の亮さんも、現在高校一年生。「珍しい種のトンボを見つけると、その標本を富山市科学文化センターに寄贈しています。機会があればみなさんに見ていただきたいですね」と亮さん。また亮さんは今までのトンボ採集データを論文にまとめ、今年、同センターの研究報告書に発表したそう。

そんな二橋さん親子が、今までいちばん嬉しかったのは、県内で発見されていなかったトンボ二種の採集に成功したことだという。「また、県内未確認というトンボを見つけたことができれば最高ですね」と口をそろえる二橋さん親子。トンボを通じた強い絆で、これからの息のあった二人三脚を続けていくことだろう。



# 富山県の主要プロジェクト



県では、県民の健康づくりの中核的拠点となる「とやま健康村(仮称)」の整備計画を進めています。

これは、富山県において全国を上回るペースで高齢化が進んでいること、全国に誇る和漢薬の歴史と伝統を持っていること、さらに「日本一の健康・スポーツ県」を目指していることなどから、県民の新しい健康ニーズに対応した健康づくりの拠点として、また伝統医学に関する国際的情報発信基地として整備するもので、平成十年秋のオープンを目指しています。

とやま健康村整備の基本方針は「いのちと暮らしの総合的に調和のとれた健康づくり」。主な施設としては、県民が健康づくり

## とやま健康村整備事業

についての情報を「知る」ことのできる「健康科学館」、健康づくりを「実践する」ことのできる「健康道場」、また、伝統医学等について「調べる」ことのできる「国際伝統医学センター」(いずれも仮称)などユニークで独創的なものが予定されています。

このように、「知る」、「実践する」、「調べる」というスムーズな流れの中で健康づくりの定着を図るのが、「とやま健康村」の特徴といえるでしょう。

健康観を従来よりも広くとらえた、全国的にも特色あるこれらの整備により、県民の健康に対する関心が高まり、自主的な健康づくりにつながっていくものと期待されます。

### 「とやま健康村」の用地交渉まとまる

とやま健康村(仮称)の建設地の用地交渉がまとまり、9月9日、県と地権者との間で協定書に調印が取り交わされました。

建設地は、富山空港近くの熊野川沿い(富山市友杉および任海地内)で、面積は約10.7ha。

調印式には、中沖知事をはじめ富山市友杉・任海地内と



▲協定書に調印後、県側と各地権者代表が握手

とやま健康村対策委員会代表の桑名慎太郎氏、富山市任海町内地権者代表の高見隆夫氏、富山市友杉地内地権者代表の桑名敬三氏のほか、立会人として正橋富山市長、新保校下自治振興会副会長の角泰一氏が同席。

中沖知事は、「日本一の健康県づくりの中核基地として、立派に整備できるよう全力を尽くしたい」と決意を述べ、各地権者代表および対策委員会役員一人ひとりと固く握手を交わしました。



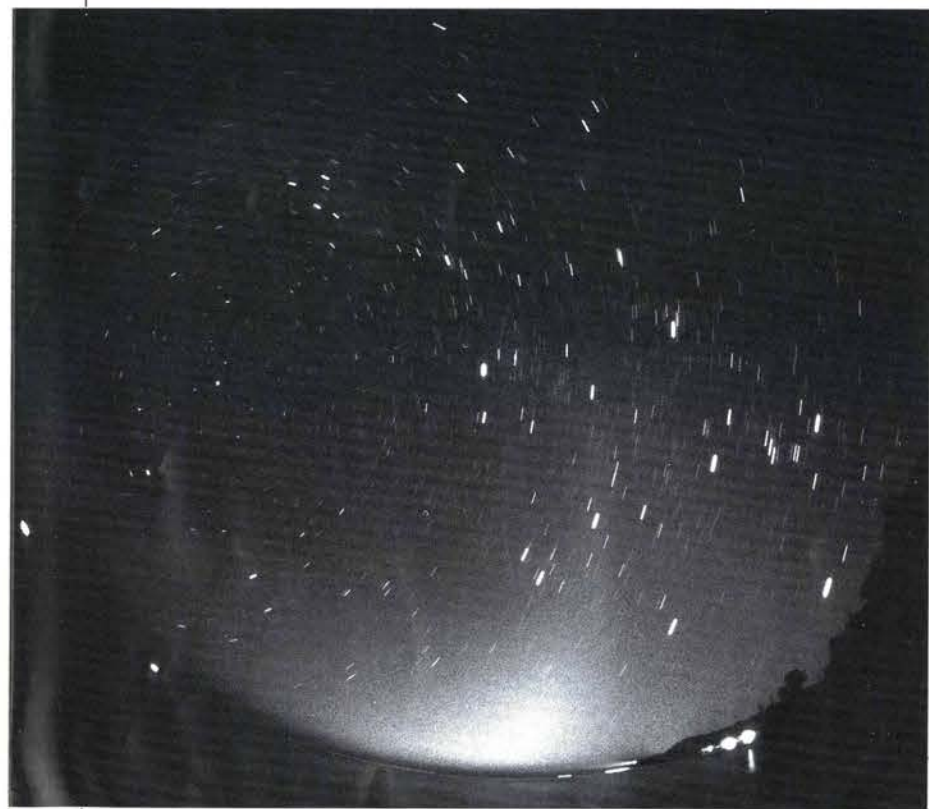
▲対策委員会役員一人ひとりと握手を交わす中沖知事

## 自然と

## 出逢うために

富山市科学文化センター館長

倉谷 寛



少し大きな表現かもしれないが、ゾッとするような光景だ。

東の空にオリオンが昇って、三ツ星の右に光る大星雲が肉眼でも美しく輝いている。その左下からシリウスが昇っているが、その七色変化の輝きは何にも例えようがない。今まで山などで何回もこの光を見ているが、こんなに感動したのは初めてと思った。

銀河が、西の空へこぼれる星屑の帯。アンドロメダ星雲の光が肉眼でくっきり見える。双眼鏡の視野に入ると、天体写真より神秘的な光として輝いているのだ!

薄明の始まる直前、東の水平線から立ち昇る黄道光が、まるで水面から非常に薄い巨大な光の網を引き揚げたような形で上空高くに伸びていた。このような光景を、「凄い」というのだ。

これは提案である。一年で全国的に晴天確立の高い日、一時間でいいから、日本全国の照明を消す日を設ける。そうして星空を眺める。きっと驚くべき光景が、夜空に展開していることに驚嘆することだろう。

これが自然本来の姿なのだ。自然へのいかなる説教よりこの体験は効き目があると思う。

#### 参考

- 富山の星空観察スポット
- 城前峠・長倉峠 (立山町)
- 東福寺野 (滑川市)
- 馬場島 (上市町)
- 医王山 (福光町)
- 基石ヶ峰・荒山峠 (氷見市)





●お知らせ●

**94都市緑化月間講演会**  
10月は「都市緑化月間」です。緑豊かで素晴らしいのある生活環境をつくることを目指して、さまざまな行事が全国各地で開催されています。  
県ではその一環として、都市緑化についての講演会を開催します。広く県民の皆様のご来場をお待ちしております。

日時 10月18日(火) 午後1時30分  
場所 北日本新聞ホール  
講師 稲垣丈夫(株稲垣ランドスケープデザイン研究所代表・太閤山ランド「滝・流れ」設計者)  
塩谷佳和(全国都市緑化フェア実行委員会・山野草研究者)  
参加費 無料  
問合せ 県庁都市計画課 ☎0764・44・3348

**「第22回花と緑の大会」開催**  
目的 花と緑の銀行の活動内容や成果を発表し、花と緑の県土づくりへの意欲向上や普及啓発を促します。  
日時 平成6年10月27日(休) 13時30分～15時30分  
場所 農協会館8階ホール  
内容 花と緑の功労者表彰  
(富山県知事表彰、花と緑の銀行理事長表彰)  
・花と緑のコンクール入賞者表彰(10部門)  
・県内優良学校による事例発表  
・花と緑の体験発表(上市町立白萩西部小学校、立山町大森振興会、黒部市岡老人クラブ)  
・立山町大森振興会、黒部市岡老人クラブ)  
問合せ (財)花と緑の銀行 〒939-27 婦中町上書田42 ☎0764・66・2425

**第10回富山県育樹祭**  
緑豊かな森林づくりは、苗木の植え付けに始まり、下草刈り、枝打ち、間伐など、我が子を育てると同様、保育作業が必要です。この機会に育樹活動の大切さを考え、緑豊かな森林づくりに参加してみませんか。  
日時 10月13日(休) 午前11時から  
場所 稲葉山牧場 小矢部市田川字稲葉30  
内容 育樹活動(コンクール表彰、枝打ち・施肥などの育樹活動、緑と木に関する体験・展示など)  
問合せ 県庁林政課造林係 ☎0764・44・3386

ことごとく「住みよい家づくり資金」の申し込みを受け付けています。  
この制度は、住宅金融公庫の融資制度を利用する方を対象に低利な資金を併せ貸しするもので、内容は次のとおりです。今年度からはUターン者など県外から移住しようとする方または既に移住済みであっても移住後5年以内の方が住宅を取得する場合には、さらに低利な資金を受けられる「Uターン者等住宅」を新設いたしました。  
「住みよい家づくり資金融資」  
(1) 融資金額 一般利率 4.1% 中間利率 3.6% 特別利率 3.1%  
(2) 融資額及び償還期間 新築・購入 500万円以内(20年以内) 中古・改良 300万円以内(10年以内)  
※いずれも住宅金融公庫借入資金の2分の1以内とします。  
(3) 申込期間 平成7年2月28日(火)まで  
(4) 受付場所 住宅金融公庫業務取扱金融機関の窓口  
(5) 問合せ 富山県住宅供給公社 ☎0764・32・5131 県庁建築住宅課 ☎0764・44・3355

**富山県埋蔵文化財センター「特別企画展」**  
**「古代の須恵器―新技術の伝来―」**  
大陸から伝えられた技術で作られた須恵器は、窯で焼かれた硬質の土器です。日常の容器や古墳の副葬品として使われた須恵器を通して、人々の生活の知恵や技術を探ります。  
期間 平成6年10月26日(水)～11月24日(土)  
休館日 会期中は無休  
入館料 無料  
問合せ 富山県埋蔵文化財センター ☎0764・34・2814

**みなさんの相談窓口**  
● 県政について  
県民相談室 富山市新総曲輪1-7(県庁内) ☎(0764)31-4111(代) 31-3131(県民相談電話)  
高岡地方県民相談室 高岡市赤祖父211(総合庁舎内) ☎(0766)21-9411(代)  
魚津地方県民相談室 魚津市新宿10-7(総合庁舎内) ☎(0765)24-5311(代)  
砺波地方県民相談室 砺波市幸町1-7(総合庁舎内) ☎(0763)33-5151(代)  
● 物価ダイヤル  
物価に関する苦情や相談があればお気軽にお電話ください。☎(0120)16-7400(県庁県民生活課内)  
● 消費生活については  
消費生活センター  
富山市安住町7-18 安住町第一生命ビル内  
(一般相談は) ☎(0764)32-9233  
(金融相談は) ☎(0764)32-3262  
消費生活センター高岡支所  
高岡市本丸町7-1 本丸会館内 ☎(0766)25-2777  
● 交通事故については  
富山県交通事故相談所東別館1階 ☎(0764)31-4111 内4400  
● 相談110番 相談  
家庭問題・悪質商法・覚えいれなど、どんな相談にも応じます。  
☎(0764)42-0110  
● シルバー110番  
高齢者や家族の心配ごと、悩みごとに富山県高齢者総合相談センター  
富山市舟橋南町5-14 社会福祉会館内 ☎(0764)41-4110

**県からのホットニュース**  
見て、聞いて、ご意見をお寄せください。  
● テレビ広報  
■ チューリップテレビ 毎週土曜日 AM9:30～9:45 「志の輔のふるさとトーク」  
■ 富山テレビ 毎週日曜日 AM9:00～9:30 「112万人のひろば-クイズ/フォーカス・イン」  
■ 北日本放送 毎週日曜日 AM11:00～11:30 「こんにちわ富山県です」  
10/2 いよいよ開幕/まなびピアとやま'94  
10/9 富山の秋を楽しもう  
10/16 豊かで安心 住生活  
10/23 私たちのふるさとづくり ～大島町～  
10/30 ぶつけよう君の真剣/  
● ラジオ広報  
■ FMとやま「ふれあいホットライン」  
県内各地からホットな話題をクリアなサウンドでおとどけます。  
毎週月～金曜日 AM9:50～9:55  
● 新聞広報  
■ 北日本、富山、読売、北陸中日、朝日、毎日 毎月第2、最終土曜日 「県からのお知らせ」

**平成6年11月街頭献血日程**

日曜日	献血場所	時間
1 火	大沢野町役場	12:30～16:00
6 日	福野町文化創造センター前	10:00～16:00
7 月	氷見市役所前	12:30～16:00
12 土	JR富山駅前	10:00～16:30
13 日	富山市中央通り 砺波市農業協同組合前	10:00～16:00
14 月	大山町役場前	12:30～16:00
20 日	富山西武デパート前	10:00～16:30
21 月	婦中町役場前	12:30～16:30
27 日	黒部市「メルシー」 ショッピングセンター前	10:00～16:00
30 水	魚津市役所前	12:30～16:00

※都合により変更する場合がありますので、当日の新聞・テレビの街頭献血案内等でご確認下さい。  
◎富山県赤十字血液センターでは、毎土曜日の午後も開所し(祝祭日除く)、献血を受け付けています。  
富山県赤十字血液センター  
富山市飯野26-1 TEL (0764) 51-5555

植物画展の開催について

植物画は絵画としての美しさだけでなく、対象となる植物を正確に科学的に描くものです。この展示会では植物画の日本の草分け的存在である二口善男氏が主催する植物画サークル、「フェアリー・リングの会」の作品を展示します。  
日時 10月7日(金)～19日(水) 9時～17時  
(10月11日(火)、13日(木)は休館)  
場所 富山県中央植物園実習室 (婦中町上書田42)  
入場料 無料  
問合せ 富山県中央植物園 ☎0764・66・4187

富山県(立山博物館) 秋季企画展

立山博物館では次のとおり秋季企画展を行います。みなさまのお越しをお待ちしています。  
テーマ 「熊と人間―その昔、そして今―」  
内容 ツキノワグマの生物学の実像に迫るとともに、熊と人間との歴史をひも解き、生態系全体に対する人間のかかわり方を問いなおす。  
期間 平成6年10月8日(土)～11月13日(日)  
(月曜日及び10月11日、11月4日は休館。)  
場所 立山博物館展示館・企画展示室  
企画展観覧料 一般100円 高・大学生 80円 小・中学生 50円  
問合せ 立山博物館 ☎0764・81・1216(代) 〒930-14 中新川郡立山町芦峯寺93-1

「自治大臣へのファックス」

このたび自治省では、広く国民の皆様から、地方公共団体や地方自治に関する制度をはじめ、地方行政に対する自治大臣への積極的な提言をいただくため、「自治大臣への提案ファックス」―ふるさとファックス―を設置しました。  
寄せられた提案の中で、具体的提言を含むものにつきましては、自治省で検討を行い、行政に生かしていきたいとしておりますので、皆様方の積極的な提言をお願いします。  
ファックス番号 03-5581-6987  
受付時間 午前9時～午後6時(土、日、祭日を除く。)  
できれば、住所、氏名、電話番号をご記入ください。  
問合せ 自治大臣官房広報室 広報係 ☎03-3591-0279(直)

社会通信セミナー 94受講者募集

社会通信教育の普及・振興を図るため、次のセミナーを開きます。通信教育を受けておられない方も自由に受講できます。  
日時 平成6年10月30日(日)9時30分～16時  
会場 富山県教育文化会館  
内容 (午前) 社会通信教育受講者体験発表、講演、ハイビジョン映像の視聴  
(午後) 著名講師による、編物・手芸講座、短歌講座、書・ペン習字講座、園芸講座、実用英語講座  
受講料 無料  
申込み・問合せ 県民カレッジ ☎0764・41・6135

私のまち写真コンテスト

まちづくりに取り組む人々の活動、まちづくりによって生まれ変わったまちの表情、まちを舞台とした人々の生活、活動をテーマとした写真コンテストを実施します。  
応募方法等  
①一人何点でも応募できます。  
②作品の裏には、題名、撮影場所(国内に限る)、撮影年月日、作品の意図(必要な場合)、氏名、年齢、性別、住所、電話番号、職業(学生の場合は、学校名、学年)を明記した応募票を添付して下さい。  
③作品は、白黒、カラーを問いませんが、一枚写真に限りず、(サイズは、キャビネ版以上四ツ切以下)  
④未発表または、他に応募していない作品に限りず。  
⑤応募作品は、返却しません。  
募集期間 平成7年1月31日まで(当日消印有効)  
応募先 〒113 東京都文京区本郷2丁目17番13号

富山県公共交通活性化シンポジウム開催

地域公共交通の重要性や役割等についてのシンポジウムが開催されます。  
日時 10月18日(火) 午後1時30分～4時30分  
場所 富山第一ホテル3階「天平の間」  
内容 (1)基調講演  
講師 一橋大学商学部教授 杉山武彦  
演題 「地域において公共交通が果たす役割について」  
(2)パネルディスカッション  
テーマ 「地域公共交通の活性化をめざして」  
問合せ 県庁新幹線交通政策課 ☎0764・44・3123

サイクリング秋の集い開催

日時 平成6年10月16日(日)  
場所 県民公園太閤山ランド  
内容 ①BMX大会 ②一輪車競技  
③ネオセンチュリーランとやま  
(太閤山ランドからの日帰りサイクリング)  
①③全て、当日参加できます。  
参加費 ①1人5000円 ②1人5000円  
③1人3,000円  
問合せ 富山県サイクリング協会 ☎0764・32・5213 県民公園太閤山ランド ☎0766・56・6116

サービスマン調査と特定サービスマン実態調査について

11月1日現在でサービスマン実態調査と特定サービスマン実態調査が全国一斉に行われます。  
両調査は、統計法に基づく指定統計調査として行われるもので、サービスマン事業所の従業者数、事業収入金額などの基本的な項目について、調査票に記入していただくものです。調査票は、統計上の目的だけに用いられ、課税など他の目的に用いられることは決してありません。10月下旬から調査員が事業所を訪問して調査票の記入をお願いしますので、みなさまの御協力を願います。

「富山県住みよい家づくり資金融資」申込案内

県では、住宅を新築、購入又は改良する際に融資を受ける  
社団法人日本交通計画協会内「私のまち写真コンテスト」事務局 ☎03-3816-1791  
問合せ 県庁都市計画課計画係 ☎0764・44・3346

全国防犯運動が実施されます

全国防犯運動が、10月1日から10日までの間、自転車や自動車等の乗り物に対する盗難防止を重点に実施されます。自転車には必ず鍵をかけ、盗難を未然に防ぎましょう。また、自動車を駐車する際には必ずロックしましょう。盗難車はしばしば銀行強盗などに使われます。このような犯罪を未然に防ぐためにもロックを忘れないようにしましょう。

「薬と健康の週間」

10月17日から23日までは「薬と健康の週間」です。日頃私たちは様々な薬を服用していますが、薬は正しい使い方や保管をしないと、効果が発揮されないばかりか、副作用が現れる恐れもあります。  
(1) 薬を正しく選びましょう。  
医師、薬剤師などの専門家に相談し、自分に必要な薬を適切に選びましょう。  
(2) 薬を正しく使いましょう。  
添付文書を必ずよく読んで、用法用量を正しく守り、定められた服用時間に飲みましょう。  
(3) 薬を正しく保管しましょう。  
湿気、日光、高温をさけて保管しましょう。また、乳幼児・小児の手の届かない所に保管しましょう。また、乳幼児・薬に関するご相談・質問は、最寄りの薬局・薬店、保健所もしくは富山県薬剤師会薬事情報センター ☎0764・21・3111 にお問い合わせください。





近頃、よく目にするような言葉

**Q** 最近、チラシ広告の中でPB商品（プライベートブランド商品）という言葉をよく目にしますがどんな商品のことをいうのですか？

**A** 大手のスーパーやデパートなどが独自に、消費者のニーズにあった商品を企画し、開発した商品をPB商品といいます。最近では、価格だけでなく健康に配慮した商品、鮮度と安全を目的とした産地直送品、地球環境にやさしい商品も登場しています。

**Q** 先日、近所の電気店に行ったら、オープン価格という文字を見ましたが、このオープン価格とはどんな価格のことですか？

**A** 店頭の商品の値段には、メーカーがつけた「メーカー希望小売価格」や「定価」などの価格と、それに併記して実際の販売価格が表示されている場合が多いようです。この場合、店頭の小売価格とかけ離れたメーカー希望小売価格がついていると、特別に値引き販売しているわけでもないのに、消費者がその商品を安いと誤解しかねません。

そこで、メーカー側が定価表示を撤廃し、小売店側がそのときの状況に合わせて、独自に決定した価格だけを表示する商品が登場してきました。これらの商品に付けられた価格をオープン価格といいます。

相談は、県消費生活センター、電話0764(32)9233、  
高岡支所、電話0766(25)2777

十月

とやまの祭事記

未明の空を焦がすたいまつ  
の炎  
たいまつ祭り

黒部市



秋も深まる頃、五百年の伝統を守り続ける黒部市生地の奇祭「たいまつ祭り」が行われる。日付の変わったばかりの深夜、杉の葉や造花で飾られた二台の屋形船に大黒様と恵比寿様が乗せられる。笛や太鼓の囃子もにぎやかに、屋形船がみこしを先導して町を練り歩き、神社へと向かう。

同じころ、神社では、約四百本のたいまつに次々と火がつけられ、参道は炎の柱に包まれる。酒が人をかまわず振る舞われ、あちらこちらで歓声があがる。

大きく燃え上がったたいまつが、白みはじめた未明の空を焦がす頃、屋形船とみこしが神社に到着し、祭りは最高潮に達する。一段と高まる歓声の中、氏子たちに担がれたみこしが、炎の柱を一気に神殿へと駆け抜けて、祭りは終演を迎える。

ところで、たいまつ祭りは、夜漁に出た漁民が突然の暴風雨で遭難しかけた時、遙かにご神火を見つけ、それを頼りに生還したという故事に由来するといわれ、以来たいまつを燃やし神のご加護に感謝しているのだという。

この祭りが過ぎると、生地の町は近づく冬への支度を始める。

（参考文献 富山の習俗）

編集後記

★優勝の山田さんをはじめ好成績をおさめた高岡女子高校バドミントン部。その練習風景を見るかぎり、決してスパルタ式といった感じではない。練習中に何度かあるミーティングで、顧問の清水先生が部員一人ひとりにテーマを与え、それに則して練習する。また、夕方には簡単な食事の時間があり、部員たちが楽しそうに談笑する。そこにあるのは、先生と部員たちとの確かな信頼関係、そして真にスポーツを楽しむ姿だ。(K)

★木の葉が色づき、街を彩り始めた。紅葉が美しくなるには、季節の変化がはっきりしているとよいといわれる。すると、今年の猛暑も秋の彩りには恵みになるかもしれない。

さて、今年は富山県と遼寧省の友好締結十周年にあたり、先日、遼寧省より友好代表団が来県、さらなる交流の深まりを確認した。今回は初秋の行程であったが、次回来県の際には、この美しく装った秋の富山もぜひご覧いただきたいと思う。(N)

★入庁して、半年が早くも経過しようとしている。この号がでる頃には、私も晴れて正式な県職員になっているはずである。それを機に、いま一度初心に帰り頑張ろうと思っている。(Y)

今月号で掲載したPIN UP TOYAMAの写真  
を抽選で5名の方にワイド六ツ切（25×18  
センチ）でプレゼントします。希望される  
方は、官製ハガキで下記の様式でお申し込  
みください。11月25日消印有効です。

氏名	富山市新総曲輪1-7
住所	富山県広報課
電話	写真プレゼント
本誌を読んだ感想	10月号係あて





とやまで、磨き。

## 技能五輪とやま'94

若者の技能の祭典、第32回技能五輪全国大会が富山で開催されます。地方で初めての開催となるこの大会で、どんなウルトラ技が披露されるのでしょうか？

と き 11月4日金～7日月

ところ ポリテクセンター富山（高岡市）  
技術専門学院（富山市） 他

内 容 旋盤・配管・電気・洋裁・調理など26の規定職種に、全国から集う若者たちが、平成7年にフランスで開催される国際大会を目指して腕を競います。

特 色 ・中国遼寧省、韓国江原道、ロシア沿海地方からも選手を招へいし、友好競技を開催  
・富山の主要産業である「アルミサッシ施工」職種を実施  
・デモンストレーションとして「井波木彫刻」「林業五種競技」を紹介

見学等 競技会場に見学者コースを設け、JR高岡駅・富山駅より無料シャトルバスを運行。すばらしい技能をご見学ください。

問合せ 県庁職業能力開発課内  
第32回技能五輪全国大会実施本部  
☎ 0766・44・9631



大会キャラクター「ドリルくん」も応援しています。

ぶつけよう君の真剣!

技能五輪  
とやま'94

第32回技能五輪(とやま大会)  
1994.11.4~7

会場/ポリテクセンター富山・技術専門学院他  
主催/中央職業能力開発協会・富山県



大会キャラクター「ドリルくん」も応援しています。

ぶつけよう君の真剣!

技能五輪  
とやま'94

第32回技能五輪(とやま大会)  
1994.11.4~7

会場/ポリテクセンター富山・技術専門学院他  
主催/中央職業能力開発協会・富山県